

利用者の声



松本寿美枝さん（安原）

皆さんが積極的な利用を

病院に通う時など週に3回程度バスを利用しています。乗車人数は多くても4人、時には1人の場合もあります。バスがなくなると困る人もいます。積極的に皆さんに利用してほしいです。

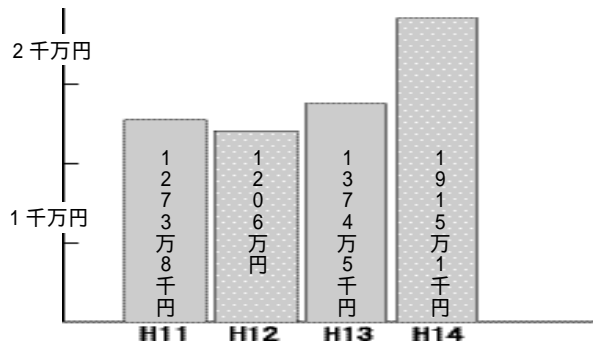


長尾一沙さん（小原）

運転手さんありがとう

バスに乗って小学校に通っています。バスの中で友達と話をしながら楽しく乗っています。バスの運転手さん、いつも安全運転で私たちを運んでくれてありがとう。

路線バスの町補助金額の推移



自動車株式会社に補助金を支払って運行を維持しています。補助金は、バスの運行経費の赤字部分について負担して

います。広域バス路線の生山線の補助金（運行赤字額）は県が半分。中山間地域路線の真住・板井原・奥渡線については、県が3分の1を負担。残りの部分をまちが支払っています。

過去4年間を比べて見ると、平成11年度が1,273万7,934円、平成14年度が1,915万8,500円（その内まちなに入った県の補助金額は365万円）と3年間で約641万円も増額になりました。

今年度の補助金は、当初予算で1,915万2千円。ほぼ昨年度並みを見込んでいます。このまま利用者が減り続ける中、今の路線を維持しようとする、補助金額（赤字部分）は年々増えていくこととなります。

深刻なバス問題

まずは利用することから

まちは、今までスクールバスを廃止し、子どもたちの通学を定期バスに切り替えたり、乗車数の少ない路線の運行便数を減らすなどの対策をしてきました。これだけではバス問題は解消できません。

バス問題でもっとも深刻なのは、まず皆さんに乗ってもらえないということです。今後どのような対策を立て、利用を図っていくかが問題です。路線バスは住民の皆さんにとって大切な交通機関です。これからも各路線とも維持できるように積極的にバスを利用していきましょう。



バスは通学に利用する子どもたちにとって大切な交通機関